



活動報告





予測不能な未来を楽しもう

今、わたしたちは予測不能な未来に向かって生きている。

だからこそ、先の見えない不安よりも、限らない可能性を楽しみ、想像力と実践をもって、望ましい未来をつくっていききたい。

だけれどアイデアをカタチにし、挑戦できる場をつくる。

ひとつひとつの行動が次世代へと続き、新たな社会への道筋となっていく。

この予測不能な未来を楽しもう。

自分たちの手で未来を発明しよう。

ネクストコモンズラボ南相馬（以下NCL南相馬）とは、全国各地域おこし協力隊を活用したプロジェクトを推進している一般社団法人ネクストコモンズラボと協働し、地域課題の解決や地域資源の活用を目指したプロジェクトを推進する、南相馬市の事業です。

具体的には、生産年齢人口の流出や空き家・空き地などの増加といった地域の課題の解決と、商売が両立する持続可能な「なりわい」をつくることを目指しています。

プロジェクトを推進する起業家（ラボメンバー）と、起業家の活動を支援し事務局を運営するコーディネーターで構成され、全員市外から移住して南相馬に拠点を移して活動しています。

Q1 「起業型地域おこし協力隊」と「地域おこし協力隊」の違いとは？

A1 地域おこし協力隊は、主に自治体が定めた特定の事業に取り組むことが多く、市の契約職員などになる場合が多数です。その反面「起業型地域おこし協力隊」は、隊員が自由にやりたい事業に独立して取り組み、市から委嘱を受けて個人事業主として活動するケースが多くなります。

Q2 ラボメンバーやコーディネーターは3年間の任期満了後、NCLとのかかわりはなくなるの？

A2 協力隊の任期終了後も、NCL南相馬の拠点である小高バイオニアヴィレッジを活用することにより、3年間培ってきたノウハウを生かしながら、他の協力隊のプロジェクト等との関わりを検討していきます。さらに、全国のNCLネットワークを活用し、他地域とのコラボプロジェクトを模索していきます。

Q3 小高ワーカーズベースとNCLってどういう関係なの？

A3 NCL南相馬事業を南相馬市から受託している企業が、株式会社小高ワーカーズベースです。NCL南相馬の事務局をコーディネーターと協力して運営しており、ワーカーズベースの提供や地域とのつながり、メンバーの伴走などを担っています。

Q4 NCL南相馬と他の地域のNCLの違いは？

A4 拠点ごとに運営方法は異なりますが、NCL南相馬は現地企業の株式会社小高ワーカーズベースが運営に協力している点が他拠点と大きく違います。コーディネーターの範囲が広くなったり、地域とのつながりがより強固になるなど、目的を共有している現地企業と協力することで、できる支援の幅が広がります。

Q5 NCL南相馬は一体何をしているの？

A5 起業家の活動の支援を通して、地域の振興・発展に寄与します。具体的には、地域課題の解決や地域資源の活用により、フォークスプロジェクトの設計、起業家の募集・採用、起業家の着任・活動・広報サポート、地域とのつながり、他企業との連携などが主な業務です。

Q6 どういう基準で起業家の採用を決めているの？

A6 応募の段階で事業企画書を提出いただき、事業を通して実現したいビジョンが明確にあることや、具体性、起業家自身がそのプランを実現する必然性などを見て選考しています。面接では、「楽観的である」「関係者を巻き込める」「ビジョンを伝えられる」などの基準で、事業に臨む姿勢を見て採用の判断をしています。

2017年にコーディネーターの募集を開始してから約3年間、事務局発足から、南相馬の資源活用や課題解決にフォーカスしたプロジェクトの提案、そして起業家の募集、着任に至るまで、様々な取り組みを地域内外で行ってきました。地域外部に向けた採用を目的としたイベントや、地域に密着したマルシェイベントの開催、住民の方々との交流など、その活動は多岐に渡ります。

沿革では、それらの活動の一部をご紹介します。

2019 9月
Next Commons Lab 遠野の活動報告会へ視察。南相馬での活動に活かすため、遠野で最初に着任したメンバーの任期を終えての報告と反省をインプット。

2020 3月
第1回活動報告会。
※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止

2019 7月
9年ぶりの海開きに際して、海のまちづくり実行委員会が「南相馬ビーチフェス」を開催。Next Commons Lab 南相馬 も事務局や運営で協力。

2019 1月
Next Commons Lab 南相馬の拠点でもある、コワーキングスペース兼ゲストハウス機能を携える小高パイオニアヴィレッジ、プレオープン。

2018 8月
加賀で行われたNext Commons Labカンファレンス*で、全国のNCLメンバーや関係者60名が一堂に会し、これまでの歩みの共有やこれからの活動について意見を交わす。

2018 4月
3人のコーディネーターが着任し、新年度キックオフ。地域資源の活用や、課題の解決にフォーカスしたプロジェクトの設計、及び募集要項の作成に取り組む。

2017 1月
南相馬市で、「地域おこし協力隊」制度を使った地域課題解決型プロジェクトの導入を検討。田林信哉副市長（2017年1月当時）と、(株)小高ワーカースペースの和田代表で Next Commons Lab 遠野に視察。

2017 9月
弘前、湖南、西条などと同時に、Next Commons Lab 南相馬のコーディネーター募集開始。未曾有の大災害により、ゼロからのスタートを余儀なくされた地域をフロンティアとして捉える「予測不能な未来を楽しもう」をコンセプトとして打ち出す。

2019

2019 4月
1月より、ラボメンバー第一陣の着任。委嘱式・オープンラボ*第一回を開催。

2019 8月
塚原アートフェス開催。東日本大震災による津波で甚大な被害を受けた小高区の沿岸部で、アートを活用して塚原に生きた証を残し、もう一度海沿いに明るい場所を取り戻そうとする活動に、Next Commons Lab 南相馬のメンバーも運営で協力。

2019 10月
地域の住民の方々との交流を目的に、「Next Commons Lab 南相馬物産展」を小高パイオニアヴィレッジにて開催。高校生から年配の方まで100名ほどが訪れ、メンバーゆかりの地域の物産を楽しんでいただく。

南相馬市、および無印良品 仙台ロフト店と協力し、ハンドメイド作家さんのヤタイマルシェやワークショップを中心とした、小高つながる市を開催。桜が見ごろの小高に賑わいを生む。

2018

2018 6月
ラボメンバーの募集開始、東京での採用説明会開催。各地のNCLが、それぞれの地域の魅力やプロジェクトの特色を説明した。

2018 10月
おだか秋まつりに出店。かたぬきと駄菓子つかみ取りで子どもたちのころをわづかみ。

2017

2017 6月
約40名の市役所職員とともに、地域の課題や資源を棚卸するワークショップを実施。後のプロジェクト設計の材料となる。



ビジネスで持続可能な馬のまちへ

【ラボメンバー：神 瑛一郎】

夏の南相馬を盛り上げる伝統文化、相馬野馬追。しかし、市内で飼われている馬は、年に一度の神事以外ではほとんど活用されていません。このプロジェクトでは、これら150頭以上の馬を活用したビジネスの立ち上げを目指します。馬を共有利用するサービスや仕組みを整え、遊休資産が経済的価値を作るシェアリングエコノミーを生み出すことで、馬たちが新たに活躍できる舞台を増やします。具体的には、コスプレイヤールをターゲットに海岸や山での乗馬体験を提供し、写真撮影ができるサービスを準備中。今後、ホースセラピーや乗馬体験等での馬のシェアリングサービスの運営に加え、観光事業との連携も視野に入れています。

地域特有の資産を活かし、経済の活性化と伝統文化の継承に歩みを進めることは、日本各地の伝統文化継承のモデルケースとなるかもしれません。南相馬から馬事文化の魅力を内外に発信し、馬と共生する唯一無二のまちを創造していきます。



移動アロマで癒しを届ける

【ラボメンバー：水谷祐子】

高齢化が進む今日において、高齢の方々の社会での在り方は大きな課題の一つです。孤立を防止するためには、地域とのつながりを強化する必要があります。このプロジェクトでは、日常のふれあいの中で誰もが安心して暮らせるまちを目指して、移動型のアロマサロンを展開。セラピストが高齢の方々のご自宅や福祉施設、病院などを訪問し、施術を行います。店まで足を運べない方にも利用していただくことで、社会との繋がりを保ち、場合によっては医療・介護分野のスペシャリストに紹介することもあるでしょう。また、ご家族や職員の方にも施術を行い、日々の疲れを癒します。

ひとりひとりとの丁寧なコミュニケーションを通じて、高齢の方々が社会とつながり続けられる地域を作ります。



地域の良いものの広報支援

【ラボメンバー：高田江美子】

人口の流出や少子高齢化により地方衰退が危惧される中、PR・広報による、関係人口の創出や魅力の発信が今後の地方振興のカギを握ります。

地方には素晴らしい文化や特産品があるにも関わらず、広報が不十分のために認知度が低いものが多くあります。このプロジェクトでは地域に特化した広報・販促支援を行うことで、隠れた魅力を掘り起こし地域内外に発信します。依頼を受けた事業の広報活動はもちろん、広報コンサルティングにも積極的に取り組むことで、地元企業の経営をサポートします。WEBページのリニューアルからイベントの運営補助まで多岐にわたる活動を通じて、南相馬の魅力がさらに内外に発信される未来を作っていきます。

魅力ある地域は観光客の興味に加え、住民の愛着を生み新たな賑わいを生み出します。外からだけでなく、内の人にとっても魅力がわかる地域を目指し、今ある魅力や強みを再発見する視点と、広報の支援で貢献します。



酒づくりでコミュニティを醸す

【ラボメンバー：佐藤太亮】

東日本大震災及び原発事故による避難によって、一度地域のつながりが分断された南相馬。安心でより暮らしやすい地域であるためには、暮らしの基盤となる地域コミュニティをもう一度構築することが必要です。このプロジェクトでは、地域への愛着を生み出す地元産の酒を介して、新たなコミュニティづくりに取り組みます。

まずは、南相馬市内での醸造所兼店舗の開店を目指します。誰でも気軽に酒造りに参加できる環境を作るため、例えば樽オーナー制度の導入など、既存の枠に捉われないプロセスで酒と人の輪を醸します。また、原材料に地元で採れる農作物を活用し、風評被害の払拭にも取り組みます。

美味しいお酒を通じて人と人の輪が広がり、その輪が地域のコミュニティを作っていく、そんな未来を南相馬で描いていきます。

ラボメンバーインタビュー

Lab Member INTERVIEW



水谷 祐子

みずたに・ゆうこ

Mobile Aroma Salon

プロジェクト

【2019年2月着任】

略歴

- 1978 横浜市生まれ
- 2001 大学卒業後、民間企業に就職
- 2011 英国IFA認定アロマセラピスト登録
- 2013 介護施設訪問サービスの仕事を開始
- 2019 Next Commons Lab 南相馬、「移動販売プロジェクト」に参加

いつも穏やかで明るい水谷さんのマッサージと笑顔はどんな疲れも癒してくれます。でもその笑顔は、辛い挫折とそれを乗り越える努力があったからこそ。仕事に誠実に取り組みたいと話す水谷さんがブレンドするアロマオイルは人を包み込む優しい香りがしました。

・・・

「アロマセラピストになろうと思ったきっかけは何ですか？

10年ほど前に祖母が大腸がんで亡くなったことがきっかけです。お見舞いも何度か行ったのですが、してあげられることが何もなく、亡くなった時にとても後悔しました。看病で疲れた母親の姿も心に引かかっていて、自分の無力さを痛感しました。そんな時に病院でアロマを使っている人々を癒す活動をされている方についての本と出会ったんです。その方は患者さ

んはもちろん、家族や職員の方にも施術をされていて。それまでは全くアロマと関係がない生活をしていたのですが、急に興味が湧いてきて勉強を始めました。初めてのうちは仕事と両立していたのですが、途中で難しくなったので、退職して勉強に専念しました。

技術を詰め込んだ究極のオーダーメイドを提供する

「アロマのどういう点に惹かれたのですか？

一つは、患者さんだけでなく、その周りで頑張っている方々の力にもなれる点です。もう一つは、一人一人に究極のオーダーメイドを提供できる点です。その方の心身の調子、処方されている薬、現在の治療方法など、その方の全てを考慮した上で、その方に最高のアロマを調合するんです。目の前にいる方だけのために、その時私の

持てる技術を小さな小さな瓶に込めるとい点が魅力的でした。

圧倒的な愛情の差に心が折れたことも

「起業を決意するまでどのような経緯がありましたか？

アロマの仕事を始めた当初は業務委託で働いていました。でも、私に対応できるのは高齢者のみで、それ以外の人には出来なかつたり、調合に使える材料も限られていたり、私が出ることがとても制限されていたんです。私がアロマセラピストになってやりたかったことができず、もやもや感が募っていききました。実は起業を決意する前に一度だけ、アロマセラピストの活動を辞めようと思うことがあったんです。当時、月に1回老人ホームに行つてハンドマッサージを行うボランティア活動をしていて。そこにもうしてもうまく対応できない方が

背反する思いに悶々としていた時期にNCLの事を知ったんです。むしろNCLの移動販売プロジェクトの募集が私にアロマセラピーを続ける理由をくれたのかもしれない。募集を見たときに、お客様を訪ねて施術する自分の姿が浮かんで「あ、私絶対にこれやりたい。やらないでどうするの」と心にまた火が付いたんです。

「東京にいた時は、ボランティアとしてもアロマセラピーをやっていたんですよね。どうして水谷さんはアロマセラピーをビジネスとして行おうと考えたんですか？

私にアロマを教えてくださいました先生が「持っている技術はきちんと評価されるべきであり、専門家としての責任に値する報酬をもらうべきだ」という考え方をもちだしたんです。私もその考え方にすごく賛同していて。先生の想いを受け継いでいきたいと考えました。もちろんボランティアは素晴らしいことですが、専門家として接する以上、責任と誇りを持ってビジネスとしてやるべきだと思います。

「東京から南相馬に移住することになったらいや不安はありませんでしたか？

初めて南相馬を訪れる前は不安でした。でも、NCLのコーディネーターさんに市内を案内してもらう機会があったので、スーパで家族連れが買い物している姿を見たんです。私が東京でしていた生活と何も変わらないものが南相馬にもあると分かった時に、不安は払拭されました。家族も初めは心配していたのですが、私が楽しく暮らしているので、今で

は南相馬が良い町だと理解してくれています。

「幸せだ…」と涙を流して喜んでくれた姿は忘れられません

「南相馬で活動を始めてから達成感を抱いたことは何ですか？

達成感というほどではないですが、手ごたえを感じたことがあります。現在、医療・介護を中心とした小高区の高齢者と接する職業の方が集う勉強会に参加しています。去年の秋この会で介護現場におけるアロマセラピーの活かし方についてプレゼンをしました。それをきっかけに、「一度試してみたい」といくつかの施設から声を掛けていただいたんです。実際に施設の利用者さんや職員さんに施術して、アロマセラピーを体感してもらいました。「またお願いしたい」と施設側から連絡を受けた時は手ごたえを感じましたね。あとは、純粹にアロマセラピーの力を再認識したエピソードがあつて。高齢の男性がハンドマッサージ中に涙を流して「幸せだ…」とおっしゃってくれました。この方、ほんの数十分前はマッサージを渋っていたんです。アロマにはわずかな時間で人の心を開く力がある。それを確信したら愛情の問題は消え去りました。

「活動の中で苦労していることはありますか？

どのようにビジネスとして展開していくかという点が難しいですね。特に施設向けサービスの場合は、サービスの公平性とクオリティのバランスなど様々なハードルがあつて。アイデアや工夫が求められる部分だと感じています。また私は移住してきた立場なので、まずは信頼関係を作る重要性を痛感しています。例えば、介護の資格を持っているとはいえ、介護職でもない他所から来た人間が、急に現場に入ると職員さんに不安を抱かせてしまう。アロマセラピーの効能や、職員さんにとってのメリットなどを知ってもらうため、まずは私自身が信頼されるよう頑張っているところです。

「今後の目標は何ですか？

直近の目標は、アロマセラピーを車内で行えるようなキャンピングカーで社会から孤立しそうなご年配の方のお宅を回ることです。あとは家族を介護している方や施設の職員さんに利用してもらい、疲れを取ったり、ストレスを吐き出せる場にしていきたいですね。そういった活動を通じて、私が社会との橋渡し役になれるといいなと思っています。



一人いらつしゃったんです。私の何が足りないのか、何がいけないのか分からなかつた。ある日、他のボランティアの一人が、その方を担当しているところを見ました。彼女がとても上手に対応している姿を見てはっと気づいたんです。私に足りなかつたのは、この無償の愛なんだって。私は彼女に及ばないと思いました。それは技術の問題ではなく、愛情そのものが足りなかつたんです。圧倒的に足りない愛情の埋め方が分からなくて、私にはもう続けられないって思いました。

「どうしても一度、アロマセラピストとして活動しようと思ったんですか？

一方で、5年間アロマセラピストとして積み重ねたものも大きかったので、辞めるのはもったいないとも思いました。やっぱり私の持っているものはアロマの技術しかないことは分かっていましたし、東京では私の目指していたアロマセラピーを実現するのは難しいとも思っていました。そんな

ラボメンバーインタビュー

Lab Member INTERVIEW

2

出会いや別れを繰り返しながら緩やかに繋がる人々の輪にそっと寄り添い、人生にほんの少しの彩りを与えてくれるお酒。そんなお酒に魅せられた佐藤さんが目指した未来は、小高に酒蔵を開くこと。お話を伺う中で、独自の人生観や美的感覚、社会の課題に真摯に向き合う姿が見えてきました。

・・・

「佐藤さんがお酒に出会ったきっかけは何か？」

「一つは大学生の時にアルバイトしていた飲食店が日本酒にすごくこだわっていたんです。それまでは日本酒は量を楽しむイメージがあったんですが、そこで初めて味わう日本酒のおいしさに感動しました。」

もう一つは学生時代に石川県でお酒を造っている方々と知り合う機会があって、

学生時代にNCL代表の林さんとお会いする機会があって、NCLの存在は以前から知っていました。おなじく学生時代に石川県の地域づくりのインターンに参加したこともあって地域づくりにはとても関心が高かったです。

一方で、僕はただお酒を造るだけじゃなくて、お酒という作品を通して世の中に対して問題提起をしたり、人の気づきにつながらるようなものを作りたいと考えていました。自分の周辺だけでお酒造りを完結させるのではなく、そのお酒が社会にとって意味のある存在でありたいと思っていて、

この思いと地域づくりの観点を結びつけて、どこかの地域でブルワリーを新規で立ち上げたいと思っていたところ、NCLがラボメンバーを募集していることを知りました。

また、東日本大震災の時に、行動を起こせなかったことに対して僕の中でもやや感がすこく残っていて。そんな思いもあって福島県や宮城県は僕の中でずっと気になる存在でした。かつ妻の実家が福島県いわき市で家業を営んでいることもあり、暮らしの面でもNCL南相馬に参加することが最適のように思えたんです。今考えれば、色々なご縁に導かれたのかもしれない。

小高という舞台で共に挑戦していきたい

「今は新潟で修行されている途中ですが、ゆくゆくは小高で酒蔵を開きたいという考えだとお聞きしました。なぜ小高という土



佐藤太亮

さとう・たいすけ

Community Brewery

プロジェクト

【2019年4月着任】

略歴

- 1992 埼玉県生まれ
- 2014 大学在学中に石川県のまちづくり会社でソーシャル系大学の立ち上げに参画
- 2015 IT系メガベンチャー企業に就職し、Eコマースの営業等を担当
- 2016 IT系スタートアップ企業へ転職、地方自治体や教育機関との連携業務等を担当
- 2019 Next Commons Lab 南相馬、Community Brewery プロジェクトへ参加

お酒を造る現場を実際に見学して作り手の方たちがかっこいいなと思ったことがきっかけですね。

酒造りの美しさに気づいた時に、自分が何をすべきかわかったんです

「どうして働いていた会社を退職して起業しようと考えたのですか？」

僕はずっと「世の中のひとりひとりがそれぞれのやりたいことを実現できている社会」を作りたいと考えていたんです。そのため、夢を実現したいと思う人にとってより良い環境を提供する会社で働いていました。しかし、お客さんが自分の価値観に合う生き方ができるように支援をしていく中で、僕自身はどうなんだろうとふと自問したんです。自分の美意識や美的感覚、価値観に基づいて、自分のやりたいことをやっているのだろうか、と。僕は一番美しい、

地を選んだのですか？

気候などの条件で考えるとお酒造りに適した地域は他にもたくさんあるのかもしれませんが、今は技術面が向上しているおかげで極端な話、世界中のどこにいても美味しいお酒が作りやすい環境になってきたと思っています。僕はお酒造りに適した条件で選ぶというよりも、自らが蔵を開くことで楽しんでくれる人がたくさんいるまちで事業を始めたいと思いました。小高は震災後、ゼロからの地域づくりにチャレンジできる、世界的にみても稀に見る最先端な場所だと考えています。自らが事業を始める舞台として小高はすごく面白い場所だなと。

「実際にお酒造りを始められてから面白さややりがいを感じる瞬間はありますか？」

自然を相手にしているので、自分の思い通りに進まない部分が多いところがあるが、今まで経験してきたいわゆる「IT系」の仕事と大きく異なる点だと感じています。お酒造りにも教科書があるのですが、それ通りにやったつもりでも思い描いていたように微生物が働いてくれるかはわからない。今はこれをやったらどうなるのかなという仮説を立てて検証していくことを経ながら一つ一つ地道に知見を積み重ねていくことの繰り返しで。手探りの毎日に大変さを感じることもあります。同時に面白さも感じています。

「活動を始めてよかったと思うことはありますか？」

楽しいと感じるものに自分の人生の時間をかけられることが幸せだと考えていて、僕にとってそれは何なのだろうと考えたときに、お酒造りが自分の中でピンと来たんです。美しいお酒造りに生涯を捧げるべきなのではないかって。学生時代から漠然とお酒が造れたらいいなと思ってはいましたが、自分の中で具体的な形になったのはこの時ですね。それからどう進めていけば自分のやりたいことを実現できるのか考え、かなり詳しく調べました。幸いにして、周囲からは反対の声はありませんでしたし、行動に移すまでにあまり時間はかかりませんでしたね。以前の会社でも楽しく仕事をさせていたいただいたのですが、お酒の事業を進めるにあたって両立するのが難しくなったので辞めました。

「『お酒造り』という言葉に対して、楽しい、などの言い回しはよく耳にしますが、あえてお酒造りを『美しい』と表現されるのはなぜですか？」

会社に勤めている時と違って、自分の人生の配分を自由に決められることが楽しいです。今は、人生の時間の全てをお酒造りに使えているので、毎日がとても幸せですね。

「これからの目標を教えてください。」

お酒を軸に事業を展開しようと思っている以上、商品としてのお酒の質は当たり前で追求しなければと思っています。当面の目標は、飲む人に「圧倒的においしい」と思ってもらえるお酒を造ることですね。

僕がおいしいお酒を造ることで、元々好きだというのは方々はもちろん、そうでない方々にもお酒の良さを知っていただけたら、この業界に全く違う業界から新規参入した意味もあると思います。お酒を国や世代の壁を越えて楽しんでいただけると嬉しいですね。



お酒造りを通して社会に貢献したい

「お酒造りという夢をなぜNCL南相馬で追いかけようと思ったのですか？」

発酵という工程を経るお酒造りは実は大部分が微生物によって作られていて、人が手を加えられる部分は限られているんです。僕たちができることはあくまでも微生物が心地よく働ける環境を作るだけ。最終的なおいしさを決めるのは微生物たちだというのが酒の世界ではよく言われていることです。つまり、人間が同じようなやり方をしても同じ酒は絶対に造れないんです。例えば、ちょっとした気候の変化によっても微生物の動きは違ってきます。寸分違う的配合、作り方をしても理論的には全く同じ酒が造れることはありません。二度と同じ酒は造れないという、酒が持つ刹那的な性質はかなさに、僕は「美しさ」を感じるのです。

ラボメンバーインタビュー3

Lab Member INTERVIEW



高田江美子

たかだ・えみこ

Local Marketerプロジェクト

【2019年4月着任】

モノやサービスを作る側ではなく、伝える側として起業することを決意した高田さん。「地域のあらゆるモノ、サービスを広く世の中に知ってもらおう。お手伝い」がしたい。」そう語る高田さんは、作る人と利用する人のどちらの表情もよく見えるちよっと後ろの位置から、両者の橋渡しをこの南相馬で続けていきます。

●●●

INCL南相馬に参加される前はどんなお仕事をされていたんですか。

大学卒業後、株式会社リクルートに入社し、東北支社（拠点：仙台）で旅行領域の営業担当として働きました。仙台で3年半勤めた後に北海道の関連会社へ転籍し、営業担当を経て数名のメンバーを管理するリーダー職に携わりました。その後、転職

を考えたことをきっかけに、南相馬にリターンしてきました。

ー どうして転職しようと思われたのですか？

30歳の頃に、漠然とですが「35歳になったら転職しよう」と自分の中で決めていたんです。当時は女性の30代後半での転職は厳しくなると言われていましたし、職場においても30代で次のステップへと転職する人が多かったため、自然と転職について考える環境がありました。また、当時私は営業担当をしながら管理職もしており、毎日充実していたものの、すごく忙しかったんです。10年後、20年後を考えたときに、一生この働き方で良いのかなと、自分の働き方について改めて考えたことも理由の一つですね。

地方で働く生き方がキラキラと輝いて見えた

ー 部分だと感じています。

また、会社に勤めていた時には経験しなかった苦勞もあります。会社にいたころは、会社の知名度のおかげで営業活動もスムーズでしたし、強い商品があるからその需要がありました。今の私は「高田江美子」という個人でしかなく、形のあるサービスではないので、営業のためにお話を聞いてもらうのも一筋縄ではないかもしれません。それに、会社に勤めている時はミスがあっても上司にフォローしてもらえますが、今はもし失敗したら責任を取るのは私1人しかいない。責任の重さや失敗できないプレッシャーの大きさを痛感しますね。

辛いときは「失敗したら次はない」と自分をわざと追い詰めて

ー 投げ出したくなる時はないですか？

辛いなと思っても、投げ出そうと思っただけではありません。受けた以上、私を信頼して依頼してくださいっている方の期待は裏切りたくないのです。

逃げたいと思ったときは、これを失敗したら次の仕事はないぞと自分を追い詰めるようにしています（笑）。この任期中に自分自身も成長しつつ、きちんと実績を積み上げ、認めてもらえる存在になっっていく必要があると思っていますので、甘えそうになった時には、今が人生において大事な時期だと自分を奮い立たせています。

ただ、INCL南相馬があるおかげで、

ー 転職活動をされていた中で起業に意識が向いたきっかけは何ですか？

転職活動を始めたころは、給料を上げることやキャリアアップすることを重視していましたが、人生を長い目で見た時に、それだけが本当に大切なのかという迷いが生じたんです。

転職の方向性に悩む中、ローカルビジネスで活躍されている方のお話を伺うイベントに行く機会があった。そこで、地域で事業を起こしている方や、やりたいことを実現している方が沢山いることに初めて気が付きました。地域で事業をする道に興味を持ち始めたころに、INCLを知ったんです。和田さんとコーディネーターの一関さんとお話する機会があったのですが、こんな素敵な方が南相馬で活躍されていることを知って、自分のやりたいことを南相馬で事業化するのでもいいかもしれないと思いました。

それまでは、起業したいとは全く考えて

相談できる仲間がいますし、話を聞いてくれる人がいるおかげで乗り越えられている部分も大きいと思います。

ー 南相馬のいい面はどこですか？

チャレンジする人に対して応援してくれる人が多い点です。この地域出身ではない人や、地元を一度離れた人に対しては、訪れる人には声をかけてくれたり応援してくれます。

また、南相馬は新しいことにチャレンジしている人が多くいる環境です。起業という新たな挑戦に関して分からないことばかりなので、先輩が沢山いることはとてもありがたいです。

ー 今後の目標を教えてください。

協力隊の任期中である3年の間にスキルアップし自分の強みを磨き上げて、起業につなげていきたいです。いつか私の活動によって多くの人に南相馬に存在する様々なモノやコトを知ってもらい、認知度の向上や、集客や売上という形で少しでも南相馬に還元できたら嬉しいです。



いなかったし自分が起業できる人間とは一切思っていなかったのですが、自分のスキルを仕事にすること・自分がやりたいことを実現するための手段として、起業する道にチャレンジすることになりました。INCLに出会わなかったら、起業するという選択肢自体思いつかなかったし、チャレンジしようとしなかったと思います。

ー 事業の方向性はという風に決めましたか？

「自分のスキルを生業にする」と考えた時に、果たして何が出来るのだろうかと思いました。その中で、自分の持っている強みはやっぱり、会社勤めしていた時に培った広告や集客における知識や経験だと考えたんです。地方において広報活動の必要性は高いと思っています。地方にはまだまだ素晴らしいものが知られていない工芸品や伝統産業、農産物や製品などは山ほどありますから、そういうものに働きたいことができればいいなと。WEB

ラボメンバーインタビュー

Lab Member INTERVIEW

4



神 瑛一郎

じん・よういちろう

Horse Sharing

プロジェクト

【2019年12月着任】

略歴

- 1995 東京都生まれ
- 2005 小学校 5年生で乗馬をはじめる
- 2008 全日本ジュニア障害馬術大会
チルドレンライダー選手権で優勝
- 2018 ドイツで調教の仕事をやりながら
選手として馬術競技に出場
- 2019 日本帰国後、調教代行を行う
フリーランスとして活動
- 2019 Next Commons Lab南相馬、
Horse Sharing プロジェクトに参加

子どもの時から馬術に熱中してきた神さん。誰よりも馬と真剣に向き合ってきた自負があるからこそ、言葉の端々から馬への自信と愛情がうかがえます。そんな神さんが馬と共に描く今までと一味違う南相馬は私たちの常識を変えるかもしれません。

・・・

ーそもそも馬と出会ったのはいつですか？

小学5年生の時です。当時相撲をやっていたのですが、服を着るスポーツをしたいと思って（笑）。いやいや続けていたので、9年間やってもなかなか成績が上がらなかった。そんな中、当時通っていた学習塾で乗馬体験のチラシを見たんです。服もきてるし、ヘルメットもかぶっているし、単純にかっこいいじゃんって思ってた。それから13年間くらい続けています。

言葉が通じなくても競技を通じて心を一つに

ーそこまで馬にのめりこめるような乗馬の魅力というのは何だと思えますか？

言葉の通じない相手とつながれる瞬間は魅力の一つです。馬術競技の一つで、馬に乗ってバーを飛び越える障害飛越競技というものがあるのですが、進んで障害を飛んでくれる馬が多いかというところではなくて。人間の指示とは真逆の方を向く馬と心をつなげて同じ競技に挑んでいくというのが面白いと思います。

ー馬を活用する事業をやるうと思ったきっかけは一体何だったんですか？

大学の先輩に教えていただいたNCLに応募したことがきっかけです。NCLでホースシェアリングが打ち出されていて興味を持ちました。

んですか？

目指しているというよりも、そういうところが好きだからですね。好きなことを好きなだけやって生きていきたいんです。思いついた次の瞬間には、その実践に取り組みたい。ただ、それだけだと生計が成り立たないので、プロジェクトとは別に乗馬の調教代行事業をしています。ベースの収入があるからこそ、馬の事業にも思いっきり挑戦できています。

ー好きなことを好きなだけやるのは、リスクも伴うと思います。他者からのマイナスな意見はどう乗り越えていますか？

僕は、乗り越えるのと、気にしないのとで半々ですね。一定数反対意見が出ることは仕方がないと思うので、良い意味で気にしないようにしています。ただ、誠実な意見に関しては真摯に受け止めた上で、僕なりに調べて、正面から説明していこうかと。でももう半分は誰に何を言われようがこれをやると決めたら成功するという思いでやっているのだから気にしないですね。

落ち込むことよりも

次に意識を向けることが大切

ー自分の中にある反対意見はどう乗り越えていますか？

自分の中に反対意見があまりないですね。僕の中には「イエスマン」しかないないので、直感で決めてからロジックを作っていく

ので、基本的には全部即決なんです。

ーそういったマインドは、乗馬を続けてきた過程で形成されたのでしょうか？

乗馬は無理やりやらされるのではなくて、自分からしたいと思って続けていました。誰しもがそうだと思うのですが、人に勧められたり、無理やりやらされたことは、僕は人の何倍も気力が少ないんですよ。その代わり、好きなことには寝食も忘れて没頭してしまう。馬の事業でもアイデアが思いつくとそれについて調べたり考えたりして、気が付くと朝になっていることがあります。

ーうまくいかなかったとき、落ち込むことはありますか？

ありません。うまくいかない時はたくさんありますが、落ち込んでも時間の無駄じゃないです。落ち込む理由は結局は他人の評価を気にしすぎることにあると思っています。でも他人は自分の思うよりも自分のことを見ていない。落ち込むことに時間をかけるのは効率が悪いと思います。学生時代も、乗馬の大きい大会で走るべきコースを間違えた時がありましたが、それでも自分をそこまで責めようとは思ってなくて。自分のミスで失敗しても5秒ぐらい落ち込んで、なぜ、どうして失敗したのかをひたすら考える。失敗した現実には嘆くのではなくて、次はどうやったら絶対に失敗しないのかを考えるようにしています。南相馬での活動も、同じく前向きなマインドで取り組んでいます。



絡を取れたり、気を使わないコミュニケーションが出来ることも、とても助けられています。

ー活動してきた中で一番楽しかったことは何ですか？

NCLのプロジェクトメンバーとして採用が決まった日ですね。もともと持っていた夢に、やっと近づけるという実感を持ってました。

ー夢というのは？

僕の夢は馬術競技をメジャーなスポーツにすることです。子どものなりたい職業ランキング1位にしたい。そうするためには、生活の周りに馬がいてすぐに馬術が出来る環境が必要だと考えています。馬が身近にいる環境を作りながら、馬術をしたい人を受け入れる状態を作るためには、ビジネスとしての継続性が重要です。まずは馬の事業で実績を作って、

南相馬だから描ける馬と暮らす未来

ー3年後の未来に対して、具体的なイメージはありますか？

具体的なイメージはまだ持てていなくて抽象的ではありますが、3年後には今よりももっと南相馬が馬のまちになっていて、僕は「このまちのウォルト・ディズニー」になっていきたいですね。ウォルト・ディズニーは主人公であるネズミのキャラクターと友達じゃないですか。僕も馬を活用した先進的なビジネスを生み出す存在になっても、立场上、馬より上にいたいわけではなくて、あくまで馬と友達のように対等な存在でいたいんです。

ー目標としている人はいますか？

たくさんいるのですが……例えば、イーロン・マスクが好きですね。

自由な発想で、人と全く違う視点でものを考えているところが魅力です。僕自身、型にはまりたくないタイプで、社会で受け入れられなさそうなアイデアを現実に落とし込んでいきたいと思っています。

ー世間が驚くような事業を目指してる



一関 宙

いちのせき・はるか

秋田生まれ仙台育ち。大学を卒業後、大手ヘルスケア企業を経て宮城県に U ターン。公立学校に勤務後、仙台市にて保育所 3 園を経営。東日本大震災から施設復旧した後、事業廃止（一部譲渡）し、一般社団法人 RCF に参画。岩手県のプロジェクでは、現地駐在員として仮設住宅に住み込み、釜石市を中心とする被災沿岸地域のまちづくりに携わる。2016 年より人材コンサルタントとして南相馬市を中心とする福島県被災 12 市町村の人材マッチング事業をサポート。Next Commons Lab 南相馬のコンセプトと仲間に共感し、ジョイン。



西山里佳

にしやま・りか

福島県双葉郡富岡町出身。高校卒業後、グラフィックデザインを学ぶために上京。CDジャケットや出版系の装丁、広告などのデザイン業務に従事。「デザインの視点はあらゆる問題解決に役立てられる」という想いから、「生きる」をデザインすることを真剣に考え、2017 年にフリーランスのデザイナーとしていわき市に拠点を移すも、Next Commons Lab に出会い、理念に共感と可能性を感じたため、南相馬への移住を決意。



井上雄大

いのうえ・ゆうだい

長野県安曇野市で幼少期を過ごし、進学で石川県金沢市へ。大学で社会学を学び、社会課題に対する関心を深める。卒業後、京都市の臨床検査会社に就職し 3 年間働く中で、自身の問題意識や目指す未来に対してより向き合いたいという想いが強くなる。社会課題の解決を目指しつつ、ビジネスとして持続させている人や団体の活動などを調べていた折、Next Commons Lab と出会い、目指す社会ビジョンに深く共感する。登山と音楽を愛する。

「NCL との出会いについて教えてください。」

一関 前職で社会事業コーディネーターをしていた際、遠野で立ち上がった NCL の存在を知りました。面白そうだったので色々調べている時に、ちょうど以前から知り合いだった小高ワーカーズベース代表の和田さんが NCL に関わることを耳にしたんです。そこで NCL と南相馬が繋がって興味を持ちました。私は東北生まれ東北育ちなので、そろそろ東京での仕事は辞めて地元に戻ろうかと考えていた時だったのでタイミングも合いました。もともと復興関係の仕事で南相馬の事業者支援に携わっていて、深刻な人材不足を実感していたのもあって、自分が地域に入って、もっと近いところで課題解決に取り組みたいと思ったんです。

西山 私は日本仕事百科という求人サイトで見つけました。そのサイトは求人だけを載せるのではなく、その仕事に携わる方のインタビュー記事も掲載されていて、読み物としてそのサイトを楽しんでいました。その中で NCL についての記事を見つけたんです。その記事に興味を持って調べてみると NCL 南相馬のコーディネーターを募集していることを知りました。以前から続けていたデザインの仕事の他に、地域でゼロから 1 を創る仕事をしたいと思っていたところだったので、応募を決めました。

井上 僕は、もともと一般企業で働いていました。でも、仕事が合っていないと感じていて。仕事を通じて自分が目指す未来っていったいなんだろうと考えた時に、長野県出身ということもあって、地域での仕事

「直近の目標は何ですか？」

一関 南相馬の海を起点に、福島沿岸部をブランド化したいと思っています。そのためには原発の根強い風評を払拭しないといけない。福島海はサーフスポットとして価値が高いので、サーフィンを活用することで海のまちとしての魅力を PR していけたらと思っています。地域の方々と一緒に地域資源をもっと価値あるものにしていきたいですね。

井上 僕は挑戦することが楽しいということとを地域の中はもちろん外にも伝えていきたいです。そのためには、今挑戦している僕らやラポメンバーが毎日充実していることが大事ですし、そのことがもっと伝わるような取り組みも必要です。僕たちの活動を見て、自分も挑戦したい！と思う人や、南相馬って楽しそう！と思う人が増えるといいですね。

西山 楽しいことを伝えるためには自分自身が楽しまないといけないと思います。やりたいことに挑戦できる環境にあるので、お金の心配をしたり、出来ないかもしれないと不安にならずに、まずは躊躇せずに取り組んでみることを大切にしていきたいです。

にやって良かったと思いました。普段は別の事業を行っているラポメンバーと一緒に取り組んでくれて、地域の人や市役所職員と密接にやりとりしながら協働できたので、イベントで地域が一体となった雰囲気嬉しかったです。

「苦労や大変なことはありますか？」

井上 移住してきたラポメンバーが新しい地域で戸惑わないようにサポートしていくことは難しいと感じることが多いですね。ここですと生活していた方にもそれぞれの考え方がるので、調整の仕方や橋渡しの方法は今も試行錯誤しています。

一関 私は、活動する中で人材不足を痛感します。シニアの方でももちろん精神的に活動していらっしゃる方がたくさんいるのですが、次世代の担い手がなかなかいない。若くて元気な人がもっといたら出来るが増えるのって思うことはたくさんあります。後継者やリーダーを地元で育てていくことが課題ですね。

西山 私が難しいと感じるのは成果が見えにくいところですね。まちづくりはすぐに結果が出るものではないので、モチベーションを保つのが難しいです。

井上 NCL の立ち位置も難しいですね。ラポメンバーとは上司でも同僚でもない。どういうスタンスで接するべきなのかはいつも悩みます。

「これから南相馬でどういう役割を担っていきたいですか？」

井上 僕は様々な文化を南相馬から発信できるようにしたいですね。例えば近隣都市圏だと自分の行きたいイベントや取り組みがあっても、身近ではなかなか少なかったり。アーティストのトークイベントなどが好きで、南相馬にもそういうものがあつたらいいなと思ったんです。自分で仕掛けていくことによって住みたいまちになったり、アートやカルチャーに携わるのなら東京に行くのが当たり前、という一般論を地域から切り崩していきたいですね。そういうことに挑戦できる余白が、ここにはあると思っています。

NCL の取り組みともつながりが深いと思っていて、例えばカルチャーの関わりでつながった人が NCL 主催のイベントにコミットしてくれたり、NCL を通じて知り合った人とカルチャーイベントを企画したり。二軸の取り組みは自分の中でつながっています。

一関 時間の流れに合わせて地域を取り巻く環境や状況って常に変化していきますよね。それに合わせて人も変化していく必要があると思うんです。地域で人が幸せに暮らしたり組織がより良くなったりするような変化を後押しすることが私の役割だと思っています。かつこよく言うと「チェンジエージェント」。変革の担い手でありたいですね。

西山 井上さんは地域の外から文化を発信していききたいと言っていたけど、私はその逆で。野馬追などの文化のまだ気づかれていない魅力を少し見方を変えることで発信していききたいです。そのことで今まで野馬追などを知らなかった方に興味を持ってもらえたらいいなと思います。

や消費的ではない社会像に漠然と興味を持っていました。でも、特別なスキルを持っていないわけでもない自分が、ひとり地域に移住して仕事を始めるということに、具体的なイメージは沸きませんでした。そんな時に NCL の募集を見つけたんです。似た価値観を持ったメンバーが地域に移住してお互い助け合える仕組みが僕にとっては魅力的でした。

「やりがいを感じた瞬間は何ですか？」

西山 NCL として活動していることが、結果的に地域の役に立てていることが多いことはやりがいではないでしょうか。

井上 僕は目にみえて成果が見えた時にやりがいを感じましたね。2019 年 4 月に「小高つながる市」というマルシェを開催したんです。地域の方の協力もあって、大勢の方々に足を運んでいただきました。他の様々な業務や活動も、将来的に地域の賑わいや活発さにつながることは分かりながら、すぐに結果が見えるものではなくて。マルシェは目の前で地域の方が喜んで下さったり、地域の賑わいを感じられたので、本当に嬉しかったですね。

西山 私は、ラポメンバーが一人ずつ増えていくことがすごく嬉しいです。南相馬で新しい仲間と一緒に働けることにワクワクするし、盛り上がりつつある地域をイメージしやすいので楽しいですね。

一関 震災後初めての海開きで最後に火花が打ちあがった時は最高でした。小さい子が初めて地元の海に入って、はしゃいでいるのを見た時、火花が成功した時は本当





和田智行

わだ・ともゆき

【NCL南相馬事務局運営】
株式会社 小高ワーカーズベース
代表

ネクストコモンズラボ南相馬（以下、NCL南相馬）は、総務省の地域おこし協力

隊制度を活用した起業家誘致・育成事業です。南相馬の地域資源や課題を新しい事業へとつなげるプロジェクトとして設計し、各プロジェクトに対し経験やアイデアのある起業家（ラボメンバー）を誘致しています。起業家は協力隊の任期である3年間、サポートを受けながらこの地域で起業を目指します。

『起業』と聞くと、「革新的なアイデアを持ったキラキラしたチームが大きな資金調達を成し遂げながら上場を目指して突っ走っている」というイメージを持ってしまう方もいらっしゃるかもしれません。しかし、首都圏の企業と連携したプロジェクトが一部あるものの、ほとんどが個人事業などのコンパクトなものです。着任しているメンバーも、どこにでもいる普通の人たちです。

そんな普通の人たちが、一見すると勝算のないこの地域で起業して普通に生業をもつことができている。そんな未来を実現す

るため、私たちはNCL南相馬を始めました。

NCL南相馬の事務局運営を受託する（株）小高ワーカーズベースは、『地域の100の課題から100のビジネスを創出する』をミッションに掲げ、2014年2月に当時まだ避難指示解除準備区域だった小高区で創業しました。以来、食堂『おだかのひるごはん』、仮設商業施設『東町エంగాワ商店』、ガラスアクセサリー工房『エカオランブワークファクトリー小高』（現在は『アトリエミズ・イリゼ』）など、小高区での暮らしを取り戻すための事業創出に取り組んできました。目指しているのは、1000人を雇用する1つの企業に暮らしを依存する地域ではなく、10人を雇用する100の多様な事業者が躍動している自立した地域社会の実現です。

しかし、私たちだけでそのような社会を実現することはできません。他にも多くの事業者や起業家が存在して初めて実現するビジョンです。とはいえ、小高区で事業を

再開したり起業することはとても困難です。震災後、様々な創業支援メニューや補助金がありました。それらを活用したからといって成功できるわけでもありません。

では、この地域で100の多様な事業を生み出すために必要な機能はなんなのか。行きついた答えのひとつが『同じ価値観を共有し切磋琢磨し合える起業家コミュニティ』でした。困難や壁に直面したときに、同じように起業を目指す仲間がそばにいて刺激をもらったり、足りないスキルを補いあったりしながら困難を乗り越えていく。そんなことが日常的に起きている場がこの地域にあれば、自然と100の事業が生まれていくだろうと考えました。

そこで注目したのは岩手県遠野市で生まれた『ネクストコモンズラボ』でした。彼らは、決して恵まれているとは言えない環境で、魅力的な10のプロジェクトを立ち上げ、10人の定員に対して全国から70名以上の起業家の応募を獲得していました。

この仕組みを南相馬で活用すれば、起業家コミュニティの核が形成できる。そう考え、遠野の仲間たちの協力をいただきながら、2017年6月、市職員の皆様と共にNCL南相馬をスタートしました。起業家が着任し始めた2019年3月には、100%民間出資による宿泊できるコワーキングスペース『小高バイオニアヴィレッジ』もオープン。他地域から移住してもすぐに利用できるワークスペースを提供することで、南相馬に起業家コミュニティを創出する環境を整えました。

2020年3月現在、NCL南相馬には4人の起業家と3人のコディネーターが着任しています。まだ1年なので、地道な仮説検証や起業に向けた準備を粛々と進め

ているメンバーがほとんどです。ゆえに成果は見えにくいですが、着実に前進しています。

一方で、南相馬に希望を抱いて飛び込んだものの、事業化が困難であると判断し、去っていった方もいらっしゃいます。残念ですが、これも1年間しっかりと仮説検証してきたゆえの結果のひとつだと考えています。

起業家をサポートするコディネーターとして着任したものの、それまでの活動でいただいたご縁を活かして起業家へ転身するメンバーもいます。彼らは迷い、悩みながらも3年という任期を最大限に活用して、この地域で持続可能な生業を生み出そうと日々努力しています。

『起業』はたしかに高リスクかもしれませんが、でも、変化が激しく先行きが不透明な現代社会において、一生安心安全が保障された人生はもうあり得ません。特に私たちは震災や原発事故によって、あるべきだった未来もある日突然失ってしまう可能性があることを知りました。だからこそ、「自分ではない誰か」や「自分ではコントロールできない何か」に暮らしを委ねるのではなく、未来は常に予測不能であることを受容し、リスクをとってでも自分の手で暮らしを確かなものにしていくという風土を醸成していきたいです。

そして、NCL南相馬がその風土を生み出すきっかけになれば幸いです。私たちのふるさとを起業するフィールドとして選び、移住してチャレンジし続けている彼らをぜひ応援してください！



東 桜子

あずま・さくらこ

【2020 年春インターン生】

2000年4月2日生まれ。京都府出身。立命館大学産業社会学部現代社会学科1回生。大学では主にメディアについて学ぶ。復興庁主催の復興創生インターンに応募、Next Commons Lab 南相馬でのインターンシップに参加する。

この冊子を手にとっていただきありがとうございます。

はじめまして、今回インタビュ・編集を担当させていただいた東桜子です。普段は京都の大学に通っており、主にメディア社会学について勉強しています。復興庁主催の復興創生インターンに参加し、1か月間小高に滞在しながらこの冊子の制作に取り組んできました。

今回のコンセプトは南相馬で奮闘する起業家の方々の「人」を知ってもらうことです。私が様々な経験・想いを持って、南相馬でのインターンに参加したように、起業家さんにも「南相馬で活動したい」という強い想いの源がどこにあるはず。「その源をどうすれば聞きだせるのか、どうすれば読んでくださる方々に伝えることが出来るのか」という問いは、インタビュや編集の経験が全くなかった私にとって、とても難しいものでした。

制作を進めていく中で、言葉は私が想像する以上に「人」を表すものだと実感しました。インタビュの中の一つの一言にも人柄や人生が詰まっていて、ひしひしと感じた起業家さんの熱い想いは忘れられません。発せられた想いをそのままの温度で紙面に残したいと思い、試行錯誤しながら真摯に向き合いました。様々なアドバイスをいただいた末、無事

に完成してとても安心していきます。

ひたすら言葉と向き合った1か月間はとても充実していました。特に、自分とは違う境遇の方の経験や考えを聴く機会に恵まれたことは貴重な経験です。どの方も真剣に伝えようとしてくださり、私もきちんと受け止めなくてはと背筋が伸びる思いがしました。私のインターンでの活動が、お世話になった南相馬やNCLに少しでも貢献できていたら嬉しいです。

このインターンで活動するにあたって、1か月も地元を離れて生活することへの不安もありましたが、南相馬の暖かい雰囲気の中で過ごすうちに払拭されました。南相馬のみなさんはとても優しく、会うときはいつも声をかけてくださり嬉しかったです。ご馳走していただいたご飯に心まで満たされました。ここで暮らす方々の優しさが南相馬の最大の魅力なのだと感じています。

最後になりましたが、お世話になった地域の方々、私のたどった美しいインタビュに真剣に答えてくださった起業家の方々、たくさんの方の気づかいや声を掛けてくださった小高ワーカーズベースの方々、そしてお忙しい中、常に気にかけて一緒に考えてくださったNCLのみなさん、本当にありがとうございました。

information

【活動報告資料】

事務局やメンバー個別の本年度の活動報告について、報告会で発表予定だった資料が右記 URL よりご覧いただけます。



ネクストコモンズラボwebサイト

<http://nextcommonslib.jp/minamisoma/>



NCL南相馬フェイスブック

<https://www.facebook.com/nclminamisoma/>



【動画配信】

ラボメンバーの活動の様子を動画にて配信中です。右記 QR コードにアクセスしぜひご覧ください。



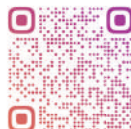
【本冊子PDFダウンロード】

右記 QR コードより、冊子の PDF データがダウンロードいただけます。



NCL南相馬 Instagram

ユーザーネーム：
ncl_minamisoma



発行元：Next Commons Lab 南相馬

編集・制作：東桜子、Next Commons Lab 南相馬 事務局

デザイン：西山里佳

協力：南相馬市 観光交流課、小林正人 (compass)、小高ワーカーズベース

発行日：2020 年 3 月 31 日

【問い合わせ】

Next Commons Lab 南相馬事務局

〒979-2124 福島県南相馬市小高区本町 1-87

小高バイオニアヴィレッジ

TEL：0244-26-4665

